

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2472800610		
法人名	有限会社 桜の里		
事業所名	グループホーム 桜の里		
所在地	三重県度会郡玉城町139-3		
自己評価作成日	平成 23年 12月 24日	評価結果市町提出日	平成 24年 3月 9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2472800610&SCD=320&PCD=24
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 24年 1月 26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成23年4月から2ユニットになり、これからも地域の一員として認知症介護のあり方を発信し続け、グループホームの役割をはたしていきたいと思っております。事業所の理念である「あ・き・ら・め・な・い」を基本に全職員が入居者様の生活歴や、今、何を望んでいるかを理解し一丸となって取り組んでいます。
近所に保育所や小学校があり、当施設が保育園児の散歩コースになっており環境も良く、入居者様が安心して笑顔で暮らしていけるよう職員、入居者様、家族、地域の方々、共に支えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自然溢れる環境に建てられた事業所は、穏やかで親しみやすく、昨年新たに1ユニット新設され、それぞれが異なる雰囲気有している。ログハウス風の設計と、檜を中心とした木材による内装の居室がある「里」は、天井が高く、開放的な雰囲気である。新設された「みなみ」は、陽当たりがよく明るい雰囲気を持ち、入居者は居間で心地よさそうに寛いでいる。管理者は、地域に根差した温かみのある事業所としての運営に力を注いでおり、親しみやすく明るい職員に囲まれながら、毎日を穏やかに過ごす入居者の笑顔が印象的である。また、入居者、家族、職員が一体となるよう、日々の言葉かけと運営に心がけている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念である「あきらめない」を基本に、困難な事例などにぶつかった時なども、理念に立ち返り、原点に戻り職員一同理解している。地域において、グループホームとして役割を発信し少しでも、街づくりに貢献できるよう努めている。	「愛・希望・楽・めざめ・なごみ・いつも笑顔」の頭文字から、「あきらめない」と標語形による親しみやすい理念を創作し、会議等で折に触れて確認し合う事で日々のケアに反映する様努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事などには、いつも誘って頂き参加した時も温かく迎えて頂いている。また当施設が、園児の散歩コースになっており、毎日の挨拶や会話を日常的にしている。	事業所の“さつき祭”には、地域から大勢の参加があり、また近くの神社の祭に入居者が積極的に参加、地域の草刈りに職員が参加する等、相互交流の充実に努めている。また、併設のデイサービス利用者と良好な関係を築いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方や、ボランティアさんに、当施設のお祭りやイベント等に、参加して頂いている。参加してくれる中で、認知症に対しての理解をして頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議において率直な意見を頂き改善への参考にして頂いている。又グループホームの、状況を度々報告し会議に参加されるメンバーへの、情報源にして頂いている。	奇数月に開催しており、事業報告を中心に、時事的な議題を提案、検討している。家族には開催日を早目に連絡する事で、多数の参加を実現しており、意見の吸い上げや良好な関係構築に寄与している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	困難事例のある時は、早めに相談し良きアドバイスを頂いたり、勉強会を開いて頂いたり協力関係を築いている。開かれたグループホームとして細かな連携の構築に努めている。	運営推進会議には、町の介護相談員が出席しており、また町仲介による介護保険の勉強会や町立病院の医師による勉強会が開催される等、積極的な協働がなされている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日々のミーティングや定例会議、勉強会などで、都度話し合い職員全員が理解に努め尊厳あるケアの実践に取り組んでいる。またご家族にも身体拘束をしないケアの重要性を説明し理解して頂いている。	拘束はしない・カギはかけない姿勢を貫いており、家族からベッド柵の希望があった際には、職員や家族との協議や勉強会を重ね、試行錯誤の上廃止に成功する等、入居者の尊厳を損なわないケアに重点を置いている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待はしない、させない、見逃さないを、全職員施設内勉強会で理解し日頃より意識を高く持つようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会や会議などを通じて連携の方法などを学ぶ機会を設け更に細かい点の学習の機会を持ちたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、重要事項説明書、契約書等を内容を必ず読みながら具体的に説明し納得頂いた上で署名捺印を頂いている。また契約時に限らず疑問や不安が出てきた場合は気軽に相談して頂ける様お声かけし都度解決している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様の面会時には、出来るだけ近況報告を持つ時間を頂き日々の、ご本人の様子を報告している。又苦情相談窓口を明示している。	面会時での報告の他、運営推進会議には全家族に出席を案内する等、意見や要望の吸い上げに積極的な環境を整えている。関連文書の字体を大きくするとともに、出された意見は迅速に反映し、運営の改善に繋げている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一回のカンファレンス、勉強会を通じてより良い職場環境を作るよう心がけ、質の向上に努めている。	日頃から職員間の円滑な人間関係を構築するようにしている。毎月のカンファレンスや勉強会では活発な意見の交換がなされている。また個別に面談する機会も多く、漏れのない意見の集約に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者が、頻繁に現場へ足を運び、各職員業務状況や悩みを、把握している。職員各自研修、資格等のステップアップが、出来る様な機会を設け目標を持って日々取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	常勤、非常勤区別なく働きがいの持てるような職場作りを、目指している。研修のテーマに応じて、県や町、地域密着型サービス協議会の、外部研修に参加し、施設内で研修報告をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	三重県地域密着型サービス協議会の研修会、玉城町地域サービス向上連絡会や玉城町福祉祭りに参加し交流する機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には、必ず家族様はもちろん本人にも、面談を行い本人の意向を、出来るだけ把握するように努めている。又全職員には入居前にミーティングを開きより良い支援を提供できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談の段階で家族様とは、なるべく現在不安に思っておられる事、要望を聞く機会を持つように心がけている。そしてこれまでの介護に労いの言葉をかけ、これから共に入居者様を支えていける様な関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談時、本人やご家族の思いやり、希望生活、経済状況なども含め話し合う。入居相談の段階でご家族と想いを聞く機会が多い為、出来るだけ詳しい内容が聞けるように時間をかけている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様、職員お互いに支え合う精神を根本に、持ち生活しているので時には、入居者様から元気を頂く事もある。入居者様、職員喜怒哀楽有り共に意見を出せる関係作りに努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃の入居者様、の様子や職員からの連絡など手紙を通じて日々の暮らしの情報を家族と共に意見を出せる関係作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまで本人が利用してきた理容店や、スーパーなどに出掛け、馴染みの方と会話したり、地元のお祭りで近所の方と会い、一緒に盆踊りを楽しんだりし、これまでの関係が途切れない様にしている。	家族の他、友人知人等、慣れ親しんだ方々が訪れやすい雰囲気が構築されており、頻繁な訪問が見てとれる。近隣の保育園児や隣接するデイサービス利用者とも、毎日のように交流があり、良好な関係が築かれている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係が円滑になるよう、常に職員が気を配り、調整役になって支援している。できるだけ、全職員が家族のように暮らせるよう、全職員参加方の活動を、計画・実行している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	事情により他の施設に移られた方、入院された方もお見舞いに伺ったり相談に応じる。また、当施設の行事にはお声を掛けさせていただき参加していただいたり継続的な付き合いをしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員が、入居者様の思いを時間を、掛けて聞き取り、独り言や表情から、今何をしたいのかを把握すると共にセンター方式を活用し、カンファレンスで話し合い、家族からの情報も収集し、入居者様が一番喜ぶ方法を考え、本人を中心に検討している。	新入居者のことは家族に聞いたり、全職員が分りやすく、アセスメントしやすい形に应用した用紙を活用する等、より深い意向の把握に努めている。また担当制を採用し、1日を通して入居者が意向を表しやすいよう取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個々のこれまでの生活歴は、入居時に出来る限り把握できるようにしているが、ご家族も知らない面もあるので、日々の様子の把握に努めると共にケアプランに生かせるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活習慣は、過去の歴史、仕事などにも関係している事なので決して画一化しない様に気を付け生活全般や本人が困っている事を把握し解決する様努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様や、ご家族様の希望を大切に、カンファレンスで職員の気持ちや、意見を出し合い、介護支援計画を作成している。入居者様の状況変化を観察しながら、計画は3か月毎に見直している。	日々の細かな気づきは、担当が介護記録に記載し、情報を全職員で共有している。3ヶ月毎に計画の評価及び見直しを、全職員参加の会議で協議し、家族の意見も取り入れ、より適切な支援を心がけている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の暮らしの様子、介護記録や身体チェック表に記入し体調の変化や、又細かい気づきの記入などケアプランに、生かせるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	健康面では、医療機関を取り入れ、医療との連携で異常の早期発見、早めの治療をしている。食事面では一人ひとり個人の趣向に合わせて食事形態の変更をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の民生委員との、意見交換や地域のボランティアの受け入れも積極的に行っている。又避難訓練、AEDの講習に、玉城町自衛消防団の協力をお願いしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者様やご家族様の希望を優先し、主治医を決定している。また、往診や訪問看護を取り入れ、入居者様が安心して過ごせる、24時間医療連携体制がある。又、急変時には臨時診療や、主治医から指示を受けている。	ほとんどの入居者が協力医による月2回の往診や毎週の訪問看護を利用し、細やかな健康状態の把握がされている。年に一度協力医による研修会が職員対象に開催され、医療に関する専門的知識の獲得にも積極的である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携の看護師を含め、連携は密に行っている。入居者様全体の健康状態を把握し介護記録に記入している。主治医とご家族様との連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	地元の病院の場合が多い為、情報提供または、情報収集は必ず行い、入院時は医師からの情報を頂き話し合い早期に、退院出来る様に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りの指針を作成し、繰り返し本人、ご家族様との話し合い、意思の確認を行っている。医療連携体制を取り、入居者様の重度化、終末期に向けた方針と、その支援に向けた体制を確立し、全職員で方針を共有している。	これまでに6名の看取りを体験した。契約時や必要に応じた時期に重度化や看取りについて家族と話し合いを重ね、在宅医療に造詣の深い協力医との綿密な連携の下、看取りに取り組んできた。職員は生きることへの感謝の念と責任感を持ち、最大限の支援にあたっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日頃から急変時に備えて、心構えは施設内勉強会で、学習したり話し合いの機会を持っている。病状の良くない入居者様が、居られる時は、緊張感を持って、仕事する様にしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎年防災訓練は、年に2回していたが、今年からは、訓練の回数を増やし、全職員避難経路も常日頃から確認をしている。	年に二度の防災訓練の他、夜間想定訓練や救命救急講習の受講等、昨年より充実した内容の対策がなされている。また、隔月開催される地域の防災会議では、津波時の対策等具体的事案について協議がなされている。	災害はいつどんな時にでも起こり得る事を念頭に、職員には毎日の役割を常に意識付けする事が望まれる。今後とも継続した救命救急講習受講や訓練の実施にも期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は入居者様を人生の先輩として尊敬しながら優しい声掛けや、対応で入居者様のプライドを傷つけない様支援している。労いの言葉掛けを忘れない様に心がけている。	職員は、入居者の尊厳を損ねる事のないケアに重点を置いており、一人ひとりの個性を尊重しながら日々寄り添い、支援している。面会簿は1枚式を採用し、個人情報の保護にも徹底を図っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活を通じて日常会話から、本人の願いなどを聞き取り実現出来る様、努めると共に職員の考えを押しつける事のないようにしている。一人ひとり個別支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な流れは作っているが、一人ひとりの生活ペースに、配慮した過ごし方をしている。出掛けたいと希望があれば出来るがけ実現できるよう配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	それぞれの希望、ご家族様の要望などを踏まえ日頃からおしゃれ出来るような環境を考えている。自己決定が難しい方には職員と一緒に選んで頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	それぞれの、仕事を分担しながら出来る人に、出来る事をしてもらう様にしている。また職員も同じテーブルで同じ物を食べ穏やかな雰囲気の中で食事を楽しんでもらっている。	和やかな雰囲気の中で、併設デイサービスの調理師の作る食事を職員を含む全員が楽しんでいる。また、週に2日程自炊日を設け、入居者に好評を得ているメニューを取り入れる等の試みもなされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の水分量、食事摂取量は、記録しながら食事が不足しがちな時は他の物で補うなど、早めの予増措置を取る様にしている。又、定期的に主治医にも報告している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事後の、口腔ケアの重要性を、全職員は理解し、ご自身でうがい、歯磨きをして頂いている。難しい方には職員によりケアさせて頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	全職員は排便チェック表で、入居者様の排泄パターンを把握し、タイミングを見ながらの声掛けや誘導で、自立に向けた支援を、個別に行っている。	入居者の多くは自立しているが、誘導等が必要な方については、排泄パターンを把握し、その人に合った支援をしていく事で、便秘の解消等健康面での支援にも繋げている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品や、食物繊維を多く含む物を取り入れている。又、健康体操、散歩などなるべく自然排便出来るように、取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は入居者様の健康状態や、その日の気分を見極めながら1～2日おきに、無理強いないことなく入って頂いている一人ひとりの、希望に出来るだけ添える支援をしている。	毎日沸かし、交代で日に5～6人が入浴する。入浴を拒む入居者にも誘導を工夫して入浴を支援する等、適切な清潔保持に努めている。また時には入浴剤を使用したり、入浴後は保湿剤を塗布する等の工夫を凝らしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を促し、夜間に程よい疲れで休めるよう、工夫している。不安感を持っている方などがあれば、安心出来るまでリビングで一緒に過ごしてもらったりしている。疲労度等を勘案し無理のない生活や適度な静養の声掛けもしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬情報のファイルを作成し、薬の作用、副作用用法、用量を理解し、症状の確認に努めている。間違えの無いようにケースに入れ色分けし一人ひとり管理している。体調の変化があった場合は、主治医との連携を密にいつもより詳細な記録を取る様にしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	全体で出来ることと、個別ケアを中心に計画的に又生活を通じて自然な流れで、出来る部分を分けて実行、計画している。又、職員は感謝の言葉を忘れず声掛けしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者様は日常的な散歩や買い物、外出、家族日帰り旅行など戸外へ出掛ける支援をしている。また、玄関先や庭の花壇の手入れなどを楽しみにしている入居者様もいます。	個々の健康状態や天候を考慮し、頻繁に近辺の散歩や買い物に出かけている。年に一度の遠足は入居者の最も楽しみとする行事となっている。また、バーベキューや流し素麺等のイベントを多々企画し、野外での楽しみを多く持つ機会を設けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本のお金の管理は施設でお預かりしているが、買い物時は入居者様にお持ちいただきレジで支払いして頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば、いつでも電話が利用できるようにしている。また、会話が他の入居者様に聞こえない様に、話が出来るコードレスの電話を使用している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	車椅子でも自由に入出入り出来るスロープを設けた玄関や、対面式のIHキッチン、ソファやテレビ食卓の配置、大きく明るい窓越しからは、のどかで四季の移ろいを、感じることもできる温かみのある作りとなっています。	大きなソファや広い畳スペースは、入居者がいつでも寛ぐ事ができる空間になっており、のどかでゆったりとした時間の流れを感じる事が出来る。華美にならない適度な飾り付けが、ログハウス風の建物設計と融和し、憩いの場を演出している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳みのスペース、ランダムに置いたソファを設置し、日中を思い思い過ごしていただける様になっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、本人が使い慣れた馴染みの物を持ち込んで頂き、家で過ごされていた様に安心した生活が、送れるよう対応させて頂いている。	異なる性格を持つ各ユニットであるが、共に室内には収納家具が備え付けられ、すっきりと片付いた印象を与える。持ち込みに制限は無く、これまでの生活スタイルに応じた過ごし方が出来る支援を図っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	内部は全て、バリアフリーになっており、生活する上で、戸惑いを感じないよう分かりやすい表示など、必要に応じ取り付けている。また新たな問題が生じた場合は、早急に職員で話し合い解決している。		